

香友会創設 80 周年記念誌の発行に寄せる想い ～編集後記に代えて～

第16代香友会会長

磯田 厚子

学部昭和47年卒業、大学院修士昭和49年修了

香川綾先生や諸先輩方が各地を回って卒業生の会を立ち上げてくださってから、80年を迎えました。この香友会創設においても、綾先生の建学の精神が根底に強く流れていると感じています。綾先生にとって香友会は、単なる同窓会、卒業生の交流の場ではなく、むしろ建学の精神がここから活かされていく、羽ばたいていく、そういう場として創られたのだと思っています。

この記念誌の企画を山下静江実行委員長・前会長はじめ香友会幹事の方々ともご相談を始めてから約9か月を経て、このような形で発行できることになりましたのは、寄稿してくださった方や情報をくださった方など、多くの皆さまのご協力の賜物と、感謝しております。

70周年記念の際には、学園創立80周年の後年ということもあり、当時の吉田企世子会長のもと大きな企画を立て、祝賀会の開催や大作の記念誌『「食は生命なり」を實踐して』を発行いたしました。香友会創設以来の詳しい年表や年次毎の卒業生からの寄稿などもいただき、本会の大きな流れがつかめる記念誌となっています。

そのため今回は、同じような大作ではなく、主にこの10年間に焦点を当て、新しく設立された支部活動や特記する活動の紹介をおこなうこととしました。

特に、この10年間では、大地震や豪雨、山崩れなど多くの災害が日本各地を襲いました。香友会でも安否確認やできる範囲での支援をおこなってきました。各支部でも支援活動に取り組まれたことと存じます。その傷跡はまだ深く残っており、産業も含めて日常的な生活に戻ることは容易ではないことを思い知ります。

各地域でこれら災害に取り組んだ会員の皆様からお寄いただいた原稿を拝見し、改めて災害現場の支援のあり方を学びました。それぞれの方が「今何が必要か」を限られた時間の中で適切に把握し、また「できることは何か」を即座に判断して支援に取り組んでこられたことがよく分かります。さすがに学園卒業生としての専門性が活かされていることを実感しました。

2020年からは新型コロナウイルス感染症が世界に猛威をふるい、学園でも、各支部でも思い通りの活動ができない状況にあります。世界的な気候変動など、同じ暮らしが続いていくとは言えない時代に突入しているのかもしれません。

香友会は、こういった時代の変化にも対応し、同窓生としての縦横のつながりと専門性を活かし、若い力も結集して、次の10年、20年に向けて取り組んでいきたいと思っています。